



琉球大学学術リポジトリ

University of the Ryukyus Repository

Title	めあて学習に生かす達成動機づけの活用
Author(s)	小橋川, 久光; 大城, 讓次; 東江, 功子
Citation	琉球大学教育学部教育実践研究指導センター紀要(5): 21-28
Issue Date	1997-11
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/8161
Rights	

めあて学習に生かす達成動機づけの活用

小橋川久光* 大城 讓次** 東江 功子**

On the Utilization of Achievement Motivation in the Goal Setting of the Physical Exercise.

Hisamitsu KOBASHIGAWA Joji OSIRO Isako AGARIE

(Received Sep. 30 1997)

最近、学校体育に於いては、「めあて学習」による授業が展開されている。

本研究は、「めあて学習」の重要性を考え、中学生を対象に、球技の選択制の授業における、3学年合同、男女共習の授業に先だて、達成動機づけを中核として「やる気について考え、授業のめあての立て方に生かす」ことを目的に行った授業研究である。本実践により「めあて学習」の効果性と有効性が高まることが期待された。

1 はじめに

達成動機について林は⁶⁾「困難なことをうまく成しとげたい、競争事態で人より優れた成績を得たい、優れた成績をあげたいというやうないわゆる何らかの価値的目標に対して、自己の力を発揮して障害に打ち克ち、できるだけよくその目標を成し遂げようとする動機または要求である。」としている。そして、やる気のある子どもの行動を動機づけている動機は決して単一なものではなく、いくつかの動機が複合していると考えられ、中でも達成動機が「やる気」の中核的動機であると述べている。また西田⁴⁾は達成動機づけについて「価値目標を卓越した水準で成し遂げようと努力したり、成功か失敗かがもたらされる場面において、成功を求め失敗を避けようとする行動の動機づけ」であると、これまでの研究より、自己の努力によって

達成可能で、困難を伴うが成功の見込みが50%ぐらいの挑戦的な目標を与えると、それに対し強く動機づけられとしている。このことは、体育・スポーツ心理学の領域でも、杉原³⁾らの走り幅跳びを課題とした実験で、実行と目標との間に逆U字関係が確認されており、高すぎも低すぎもしない五分五分の挑戦的な目標を設定するのがよいということである。

以上のように、一般的によくとりあげられる「学習意欲」とか「やる気」の問題は、とりもなおさず、達成動機づけの問題であり、目標設定と深く関わっていることがわかる。

学期の初めにあたり、ある中学校の掲示板をみると、「お正月、賀正、迎春、初春、頌春、このように多くの言葉……一部省略……あたりまえに頑張れる幸せに素直に感謝して、自覚と目標を持って、たったひとつの命をしか

*琉球大学教育学部保健体育教室 **琉球大学教育学部附属中学校

り磨きましょう」と書かれていた。人は、ことを始めるにあたって、目標を持つことの大切を教えられる。本稿はこのような時期に、琉球大学教育学部附属中学校の「球技」の選択制の授業における、3学年合同、男女共習の授業に先だって、達成動機づけを中核として「やる気について考え、授業のめあての立て方に生かす」ことを目的に行った授業研究の事例である。

2 方 法

1) 対象：1年生150人、2年生97人で、クラス毎に4人一組で行った。

2) 実施期日：1997年1月6日～10日

3) 授業内容

授業に先だって、授業者と達成動機づけの概要および下山²⁾が小学生を対象に行った「やる気のある人になるために」の指導案を詳細に検討を行い、下記の指導案を作成し授業を行った。

表1 保健体育科学習指導案

(1) 単元名：「球技Ⅱ（選択制授業）」（第一時間目） (2) ねらい：「やる気について考え、授業のめあての立て方に生かす」 (3) 指導の展開			
	学習活動	予想される生徒の反応と指導上の留意点	準備・資料
はじめ 5分	○本時の学習活動を確認する。 ○本時のねらいを確認する。 「やる気について考え、授業のめあての立て方に生かす」	・画用紙に授業の進行表を書き黒板にはる。 1. 体育の授業でやる気が起きる時はどんな時だろう（話し合い） ↓ 2. やる気のある人になるため（質問紙） ↓ 3. 体育の授業に生かすには（まとめ）	進行表
なか 35分	○体育の授業でやる気が起こった時、やる気が出た時は、どんな時か、また、自分のクラスの生徒でやる気があると思う生徒の特徴について考える。 ・グループでプレーンストーミングさせる。 ・グループ内で発表し合い、記録表とフラッシュカードに記入し、カードを黒板にはる。 ○やる気のある人になるための学習をする。 ・質問紙に答えながら学習する。 ①目標の立て方のうまかった人とその理由 ②ゲームを楽しみながらうまいやり方をした人と理由 ③自分の目標の立て方とその理由 ・解答と解説を聞きながらまとめをする。 ○体育の授業でやる気を出すにはどうすればいいか、また目標の立て方を体育の授業に生かすにはどうすればいいか考える。 ・体育の授業のめあての立て方に生かす	・ほめられた時、楽しい種目の時、自分のチームが勝った時、好きな運動種目の時、自分の得意な種目の時、仲のいい友達と同じチームになった時 ・あまり深く考えすぎずにどんどん意見を出し合うように促す。 ・なかなか意見が出ない時は、有名なスポーツ選手を例に考えさせてみる。 ・時間をかけすぎないように気をつける。 ※結果によって目標を立てること。 ※自分の力を考えて、いつも挑戦しながら行う。 ※何度も失敗した場合は目標を下げて挑戦する。成功した場合はもう少し高い目標に挑戦する。 ※少しむずかしいと感じても自分から進んでやろうとする。 ※自分の力を試したり伸ばしたりしようとする気持ちを持つ。 ※成功したいとか、勝ちたいという気持ちを強く持つ。 ※常に目標を持ち、目標の立て方を工夫する。	プレーンストーミングの留意点（表） まとめ（表）
まとめ 10分	○学習全体のまとめをする。（反省と評価） ・学習のねらいは達成できたか。 ・仲間と協力して教え合い、楽しく学習できたか。 ・評価カードに記入する。 ○次時の確認	評価 1 やる気が起きる時について理解できたか？ 2 やる気があると思う生徒の特徴について理解できたか？ 3 目標のうまい立て方ややる気のある人の目標の立て方について理解できたか？ 4 授業でのめあて（目標）の立て方について理解できたか？ 5 仲間と協力して楽しく学習できたか？	

琉球大学教育学部附属中学校（大城議次、東江功子作成）

(1) 掲示物

ア. 授業の流れ：「やる気」のでる条件（話し合い）→「やる気」のある人になるためには（問題冊子）→体育の授業に生かすためには（まとめ）

イ. フラッシュカード：体育の授業でどんな時「やる気」がおきるのか？「やる気」の条件？をあげてみよう。クラスの生徒で「やる気」のあると思う人の特徴は？あげてみよう。

ブレンストーミングの結果、グループからでた意見項目。

ウ. ブレンストーミングのきまり：①自由奔放（深く考えずにアイデア、思いつきを発言しよう）②批判厳守（他人の発言を批判しないこと）③便乗歓迎（他人の意見に便乗して、その意見から連想されたことを発言しよう）④質より量（いい悪いは考えないで、たくさん発言しよう）

エ. まとめ：「やる気のある人」は、目標をたてるとき、1. むずかすぎるところややさしすぎるところに目標はおかない。2. 偶然勝ち負けが決まるようなことは好まない。3. 自分のやった結果を考えて自分の力をためすところに目標をおく。4. 途中でうまくいかなくてもあきらめません。→成功しようとする気持ちが高く、努力することの大切さを知っている人。

(2) 問題冊子：問題冊子は、目標の立て方について学習するためのものであり、下山が行った「やる気のある人になるために（その2）実際編」を球技の授業用に内容を変えて実施した。例えば、輪投げゲームは、バスケットボールのフリースローゲームに変更した。質問は6項目からなり、回答と回答した理由が求められている。冊子の最後の頁には教師が望ましいと考えた回答とその理由および上記のまとめが書かれている。

(3) 評価カードとアンケート：やる気についての授業を評価しましょう。そして、今日の学習

を後に生かしましょう。以下①-⑤について4段階評価で実施した。

- ① 体育の授業で、やる気が起こる時について、他の生徒の意見や考え方を理解できましたか？
- ② 体育の授業でやる気があると思う生徒の特徴について理解できましたか？
- ③ 目標のうまい立て方や、やる気のある人の目標の立て方について理解できましたか？
- ④ 体育の授業でのめあて（目標）立て方について理解できましたか？
- ⑤ 仲間と協力して楽しく学習できましたか？
- ⑥ 授業を終えての感想（自由記述）。
- ⑦ 「やる気」のある人になるために、今後どうしたらいいでしょう？（自由記述）。

3 結果と考察

ブレンストーミングによる「やる気のでる条件」および「やる気のある人の特徴」は、例に見られるような項目が、全体でそれぞれ約60項目あがってきた。表2および3は「やる気のでる条件」と「やる気のある人の特徴」について、著者の判断でだまかに分類を試み示したものである。「やる気のでる条件」は、本研究が体育の授業であることから、刺激経験・楽しさ＝気分の好い時・楽しい時、好きな運動・スポーツの時などが一番多くみられた。続いて、熟達志向＝目標がある時・達成した時、はじめての技を知った時、挑戦した時など。対人交流＝まわりの応援、みんなと力を合わせた時など。有能さの認知＝期待されたとき、尊敬された時など。外発的動機づけ＝賞品・褒美がある時、先生にほめられた時、ダイエットなど身体的調整を感じた時など、多様な意見が見られた。従来、行動に対する動機づけの質を論じる概念的枠組みとして、内発的動機づけ対外発的動機づけという、対極した二元論な捉え方が一般的であった。しかし、最近、このような対立概念であるとする、いわば固定した考え方を否定する考えがでてきている。その代表が自己決定連続体の概念であり、本結果は、内発的動機づけ・外発的動機づけの連続体の考え方と連動するものと思わ

れ⁵⁾⁹⁾、人は、運動の楽しさ、知的好奇心、達成、挑戦などの内発的動機づけを主体としながら外発的にも動機づけられ、重要な他者との交流・支援を持ちながら意欲的になるものと思われる¹⁾(表2参照)。

次に、「やる気のある人の特徴」は、体育・スポーツが得意・好き、積極的で機敏な行動のある人、性格的に明るい人、真剣でまじめで貴重面な人、あきらめない・くじけないで努力

する人、前向きで目標を持っている、意欲的でチャレンジする人、協調性があり、やさしく人を侮辱しないなどにまとめられる(表3参照)。体育・スポーツ場面を想定しているの、活動的、積極的な特性を持つ意見項目が多く見られるが、静的で慎重な姿勢と、暖かさの項目も見られ、やる気のある人の特徴が幅広いことがわかる⁷⁾。

問題冊子については、教師のあげた正解と同

表2 やる気のでる条件のまとめ(全体)

No.	項目名	頻数	No.	項目名	頻数
1	好きな運動・スポーツ・種目のとき	31	32	ライバル(競争相手)がいるとき	8
2	得意なスポーツ・種目のとき	18	33	ゲーム(試合)のとき	7
3	面白いとき	3	34	競争・勝負・挑戦しているとき	4
4	興味のあるとき (55)	3	35	ゲーム感覚でできるとき (20)	1
5	楽しいとき	21	36	先生にほめられたとき	5
6	気分のいいとき(happy)	16	37	まわりの応援	2
7	天気・気候のいいとき(涼しい)	13	38	他人が一生懸命頑張っているとき	1
8	体調がいいとき	9	39	みんなと力を合わせたとき (9)	1
9	張り切っているとき(元気)	4	40	代表になったとき	1
10	嬉しい・幸せのとき	3	41	尊敬されたとき	1
11	青春しているとき	2	42	期待されたとき	1
12	いいことがあったとき	1	43	自分が目立ったとき (4)	1
13	いい知らせがあったとき	1	44	好きな人と一緒のとき	14
14	頭が冴えているとき	1	45	好きな先生	3
15	穏やかな雰囲気のあるとき	1	46	嫌いな人が相手チームのとき (18)	1
16	夢中になったとき	1	47	賞品・褒美があったとき (10)	10
17	のっているとき	1	48	給食の前後・美味しいとき	7
18	早起きしたとき	1	49	おなかですいていないとき	1
19	遅刻しないとき (76)	1	50	ダイエットしているとき	1
20	目標があるとき・達成したとき	15	51	運動不足で身体がなまっているとき	1
21	出来なかった技が出来たとき	6	52	太っているとき (11)	1
22	いいプレイしたとき	2	53	自由な時間	3
23	成績があがったとき	1	54	体育着を忘れていないとき	1
24	初めての技を知ったとき	1	55	久しぶりのとき	1
25	もう少しのとき	1	56	イベントのとき	1
26	追いついたとき	1	57	その他 (11)	5
27	ピンチのとき	1			
28	誰かに追われているとき	1			
29	簡単そうなとき	1			
30	勝ち目があるとき	1			
31	運動量が適度なとき (32)	1			
	出現頻数の小計	163		出現頻数の小計	83
				出現頻数の総合計	246

表3 やる気のある人の特徴まとめ（全体）

No.	項目名	頻数	No.	項目名	頻数
1	体育・スポーツが好き	9	31	プラス思考	2
2	体育・スポーツが得意	9	32	意欲的	1
3	運動神経がいい	9	33	チャレンジする	1
4	スポーツマン	4	34	失敗を気にしない	1
5	体力がある	2	35	声大きい	1
6	スポーツ万能	1	36	ガッツがある	1
7	足が早い	1	37	堂々としている	1
8	走っている	1	38	熱血漢 (9)	1
9	運動が上手	1			
10	呼吸が上手	1	39	物事に前向き	4
11	何でもできる (39)	1	40	目標をもつ	3
			41	希望がある	1
12	積極的	18	42	勇気がある	1
13	機敏な行動（行動力） (29)	11	43	しっかり者 (10)	1
14	明るい	16	44	真剣（まじめ・貴重面）	20
15	元気	13	45	頑張っている	5
16	輝いている	8	46	張り切っている	3
17	楽しい	8	47	一生懸命 (30)	2
18	生き生きしている	4			
19	はきはきしている	4	48	親切	2
20	笑顔	3	49	協調性がある	1
21	健康的	2	50	人を侮辱しない（人を笑わない）	1
22	人を笑わせる力がある	2	51	やさしい	1
23	まぶしい	1	52	目立たないでやっている	1
24	無邪気	1	53	いやな顔をしない (7)	1
25	さっぱりしている	1			
26	目が潤んでいる	1	54	目立ちがりや	3
27	雰囲気がある (65)	1	55	威張っている	2
			56	ライバルがいる (6)	1
28	あきらめない（くじけない）	4			
29	努力する	3	57	おしゃべりなど、その他 (12)	12
30	負けず嫌い (9)	2			
	出現頻数の小計	142		出現頻数の小計	74
				出現頻数の総合計	116

じ回答をした生徒は85%－90%であった。このことは、表4にも見られるように、生徒が目標の立て方をよく理解している結果であると考えられる。同時に回答が異なる場合も、生徒とのディスカッションから、生徒は対戦相手の得点や場面によって目標を立てており、一方的な回答よりも教師・生徒相互作用のある展開をもっていくことに力点を置くことが必要である。そのことによって、本時のねらいに発展性を持た

せることができたからである。例えば、最後に上げてある生徒の感想文の中にあるように、やる気には動的なやる気と静的なやる気があることを生徒は理解していたり、中程度の目標だけでなく高い目標を持っていることもやる気のある証拠であるという答もあり、多様な意見は自身のある授業の展開に結びつく。

表4は1. 2年生全体のアンケート調査の結果をまとめたものである。4つの調査項目いづれも、「よくわかった」と「わかった」を加えると、97%以上の生徒が本時の授業について理解できたと回答している。うまい目標のたて方の理解度と体育の授業での目標のたて方の間に「よくわかった」と「わかった」の2つのカテ

ゴリーに違いが見られるが、統計的に有意な差が見られるほどの差ではなかった。協力度についても95%を越えており、5つの調査項目間に統計的に有意な差は認められなかった。以上の結果から、本授業はある程度成功であったものとする。

表4 評価カードの集計(全体)

度数(%)

質問項目	評価段階	よくできた	できた	あまりできない	全然できない
他の生徒の意見・考え方の理解度		163 (66.3)	77 (31.3)	6 (2.4)	0 (0.0)
やる気のある生徒の特徴の理解度		161 (65.7)	82 (33.5)	2 (0.8)	0 (0.0)
うまい目標のたて方の理解度		162 (65.9)	78 (31.7)	5 (2.0)	1 (0.4)
体育の授業での目標のたて方の理解度		141 (57.3)	98 (39.8)	7 (2.8)	0 (0.0)
仲間との授業での協力度		155 (63.0)	79 (32.1)	9 (3.7)	3 (1.2)

4 生徒の感想

次に、授業後の生徒の感想文の中に、この種の授業研究の意義を理解することができる。

問.「授業を終えての感想およびやる気のある人になるため、今後どうしたらいいでしょうか?」について

Aさん：私たちの間で、あまり「やる気」ということばを使うことはなく、そのことばについて、あまり考えたりしないので、私たちの生活の中で、「やる気」というのが、とても大切だということがわかりました。これから、たくさんやる気を出して、楽しく生活していきたい。

「やる気のある人の特徴」をみんなで話し合った結果、いつもやる気のある人は、せっきょく的とか、明るいとか、があったので、私もこのように、体育だけでなく、他の教科も、こういうふうに、とりくめたらいいなあと思いました。

Bさん：ただ、スポーツがうまい人だけがやる気があるだけではなく、じみちにやる人もやる気がある人と感じた。

Cさん：今日の「やる気」についての授業をおえて、「やる気」がでる理由や「やる気」のある人の特徴が理解できた。久しぶりに、グループで話し合いをしたことが、とても楽しかった。班で意見を出し合うことで、沢山の意見を聞くことができ楽しかった。これからは班で意見を出し合ったりできる授業をしてほしいです。

Dさん：やる気がある人の特徴を先生は上げたけれどあれだけじゃないと思う。高い目標をもつのもやる気がある人だし、先生があげたのは「やる気がある人」というよりも「スポーツのうまい人」のような気がした。

Eさん：今日は「やる気」についての授業をしました。私はまさか「やる気」につい

での授業をするなんて夢にも思いませんでした（あたりまえですけど）。授業を終えてまずいえることは、楽しく、そしてわかりやすく「やる気」について学べたことです。普段は「やる気」についてわからないつもりでも、今日の授業で自分がA君だったとして考えてみたら、意外とわかっていました。今日の授業で学んだことをこれからの生活に生かしていきたい。今日の授業で学んだことから言うと、「やる気」のある人になるためには、まず、自分の力を考え、山のようなところや谷のようなところ、つまり……あまりにもむずかしすぎるところや、あまりにも易しすぎるところに目標をおかないということです。だから私は目標を1歩手前のところ、つま先立ちのところに置き、途中でうまくいかなくてもくじけず、その目標にむかって、自分の力を伸ばして行けるようにしようと思います。そうすることが「やる気」のある証拠になるのではないでしょうか？

5 授業者のことば

授業を実践するにあたって、まず考えたことは、中学生にとってこのような理論を学ぶことが、その後の授業にどのように生かされてくるだろうかということであった。知識として持っているのに実際の生活には生かされていない、とか、わかっているけれどもうまく行動できない、などである。これは、本校の生徒の特性の一つでもあるが、知識を運動実践に結びつけることができない生徒をどう変容させていくかという、アプローチの一つの方法として大変興味深い実践であった。

生徒の感想から、普段あまり意識しない「やる気」について、それぞれの尺度で、自分や他人の行動を見ていることがわかる。このような授業をすることで、意識し出すという生徒もい

たようである。

私達が運動を継続して実践する場合、過去の体験を基にした知識を駆使して行う場合がほとんどである。場合によっては、間違った情報や知識をそのまま運動実践に結びつけることもあると考える。そのような観点からも、運動実践や学習がこれからという生徒にとっては、運動実践に生かすための知識としてこのような理論を学習することは、意義のあることと考える。

本題の「やる気」について考えたことは、生徒自身の運動実践を振り返ったりする機会になり、自己評価を高め、ひいては運動実践に結びつくものと考えた。この題材を単元計画の中に位置づけるとともに、評価の計画と関連させ実践すると効果的であると考えた。

6 今後の課題

本事例は、1・2年生を対象に3学期のはじめに行なったが、時期的には1年生を対象に1学期のはじめに行うのがよいと思われる。また、内容の面から考えるとかなり多岐にわたっていた。また、全生徒から出た表2に見られるような意見をまとめて再度フィードバックし、内容を深めるためには1時間では不十分であったと思われる。さらに今回は、問題冊子が量的な面の結果目標だけになっているが、今後は質的な面も含む、動きの目標（技能的側面）^{3) 8)}についても検討する必要があると考える。

引用文献

- 1) 桜井茂男 学習意欲の心理学（自ら学ぶ子どもを育てる） 誠信書房 1997
- 2) 下山剛 達成動機づけの教育心理学 金子書房 1981
- 3) 杉原隆「めあて学習への提言 心理学の立場から」体育科教育 44-7 1996 P.31-33
- 4) 西田保 「スポーツに対する動機づけ」B級スポーツ指導教本 日本体育協会 1990 P.59-67
- 5) 大迫光由 運動・スポーツにおける内発的

- 動機づけの構成概念について 1997 平成
8年度琉球大学大学院保健体育修士論文
- 6) 林 保 「やる気を引き出す指導」教育心理 32-4 1984 P. 6-11
- 7) 宮本美沙子 やる気の心理学 創元社
1982 p. 4-19
- 8) 三木四郎 運動学習に取り組む意欲を考える 金子明友監修 教師のための運動学
(運動指導の実践理論) 大修館書店 1996
p.40-47
- 9) Pelletier, L.G., Fortier, M.S., Vallerand, R.
J., Tuson, K.M., Briere, N.M., & Blais, M.R.:
Toward a new measure of intrinsic moti-
vation extrinsic motivation, and am-
otivation in sport: The sport motivation
scale (SMS). Journal of Sport and Ex-
ercise Psychology 17 1995 p.235-51.